

論文内容要旨 (乙)

論文題名 Skin Perfusion Pressure を用いた虚血創に対する外科的デブリードマンの適応に関する指標

掲載雑誌名 昭和学会雑誌 74 巻 3 号 2014 年

医学研究科 外科系形成外科学 (昭和大学藤が丘病院形成外科) 専攻

内容要旨

重症下肢虚血(critical limb ischemia)に伴う壊死組織を外科的にデブリードマンすると、時として創縁の正常皮膚にまで壊死が広がることが指摘されており、安易な外科的デブリードマンには警鐘がならされている。しかし、どの程度の血流があれば、壊死を拡大させることなく外科的デブリードマンが可能かに関する客観的指標は、これまで示されていない。本研究の目的は、虚血創に対する外科的デブリードマンを施行した際、創縁の壊死拡大と皮膚灌流圧 skin perfusion pressure (以下 SPP) 値との関連を評価することである。2006 年 1 月から 2012 年 12 月までの間、SPP 値が 40mmHg 以下の虚血創に対して外科的デブリードマンを施行しえた患者を後方視的研究の対象とした。壊死の拡大の有無は、カルテ記載もしくは創部の写真をみて判断した。外科的デブリードマン後、創縁の壊死が広がった群 (necrosis group) と広がらなかった群 (non-necrosis group) に分けて ROC 曲線を作成し、cut-off point を求めた。48 症例 54 創部がこの研究の対象となり、その内訳は necrosis group は 17 症例 19 創部(35.2%)、non-necrosis group は 31 症例 35 創部(64.8%)であった。全症例の平均 SPP 値は 24.3mmHg であり、necrosis group(20.0 ± 7.5 mmHg)と non-necrosis group(27.7 ± 6.3 mmHg)との間に有意差が認められた (p -value=0.008)。また SPP20mmHg 以下では、感度 63%、特異度 85%、尤度比 4.5 となり、ROC 曲線で最も左上方に近づく値を取った。これにより虚血創に対する外科的デブリードマン施行後に、壊死が拡大する cut-off point は SPP 値 20mmHg とするのが妥当と考えられた。すなわち、SPP 値 20mmHg 以下で外科的デブリードマンを施行した際、健常皮膚にまで壊死が拡大する可能性が高いと考えられた。